

2019年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	飯田 隆夫
研究テーマ	相模国大山寺縁起と木太刀奉納習俗に関する研究
研究概要	相模国大山寺縁起の内、寛永 14 年当時に多数作成された真名本縁起は、徳川秀忠・家光の寺社政策と密接に関係する。また、今日大山寺本堂庇に現存する享保 2 年銘の江戸家根屋講中の木太刀は、最古の遺物である。この縁起と木太刀奉納の習俗は、近世相模大山信仰の初期的な重要課題と捉え、これらを 2019 年度内に解明する。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>2019 年度の科研費申請し、若手研究部門課題「山岳参詣における木太刀奉納習俗と大山御師の身分形成過程の調査・研究」が受理され、2019 年度は初年度課題として取り組んだ。この研究目的は、(A) 木太刀奉納習俗と大山御師の調査・検討、(B) 徳川幕府の宗教政策と御師身分の形成過程の調査・研究の 2 項目に分かれる。</p> <p>(A) は、東御市（長野県）大日堂所蔵・川越市立歴史博物館所蔵のそれぞれの木太刀の現地調査を秋に進めた。2 月、初代市川団十郎代々究明のため歌舞伎文化資料館及び市川大門の現地調査を進めた。</p> <p>(B) は、寛永 14 年大山縁起制作の背景に春日局と筑波山知足院第 3 世栄増との接触がみられ 9 月、筑波山神社の現地調査及び春日局関係資料調査を進めた。</p> <p>(A)・(B) に関する基礎的調査の作業は、課題の 60%程度は完了したと判断している。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>研究ノート「『大山不動霊験記』における霊験主の考察」『佛教大学総合研究所紀要』第 27 号、2020 年 3 月末日掲載。本論は、山頂の石尊権現が大山信仰の対象として重要で、民間信仰発生期の初期的習俗である木太刀奉納と深く関係するために立論した。</p>
3. 競争的資金等への応募と採択	<p>研究課題「山岳参詣における木太刀奉納習俗と大山御師の身分形成過程の調査研究」科研費（若手研究）採択、研究機関 2019 年 4 月 1 日—2022 年 3 月。</p>
4. 今後の課題	<p>(A) の課題は、初代市川団十郎の元禄 3 年「自記」に見られる大山寺への木太刀奉納と寛文 3 年（1663）～貞享 3 年（1686）の間に大山御師の発生及び檀廻活動との関連を資料的整理・分析することである。</p> <p>(B) の課題は、寺社造営が一層活発に行われた徳川家光の代、春日局と栄増の 2 人が大山寺造営に関して寛永 17 年前後にどのような関わりを持ったかの資料的整理と裏付作業を行うことである。</p>